作品概要

タイトル:「Desert Battle」

ジャンル: TPSアクション

開発期間:3週間

開発環境: DirectX11, Visual Studio 2019

開発言語: C/C++



タイトル画面

作品概要



ポイント

ボスの属性に応じてフィールドの様相が 変わる

ボスが地面に潜ると土が盛り上がる、泳 ぐ動きに合わせて波が発生するなど 敵の動きに地形が影響を受ける地形変動 に注力!

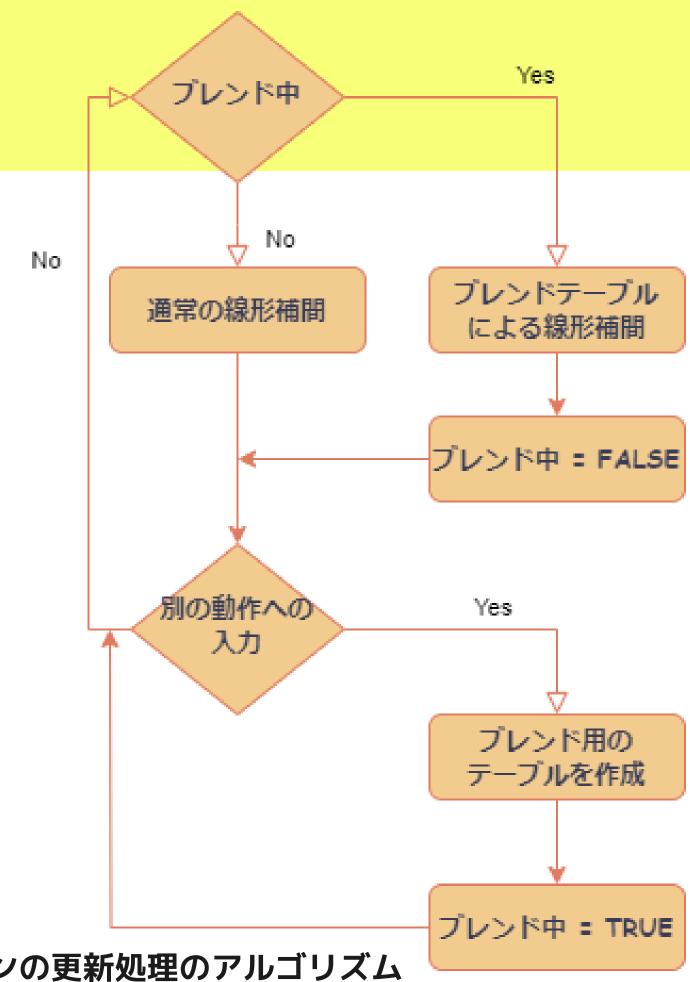
階層アニメーションにおけるアニメーションとアニメーションの
切り替え時に<mark>ブレンドを行い</mark>
アニメーション同士の切り替えを滑らかにしています。

通常アニメーションの線形補間用データが 格納されたテーブルの他に、 ブレンド時用のテーブルを予め用意し処理を行っています。

アニメーションの更新処理

現在ブレンド中かを判断しそれによって線形 補間用テーブルとして呼び出すアドレスを変 更しています。

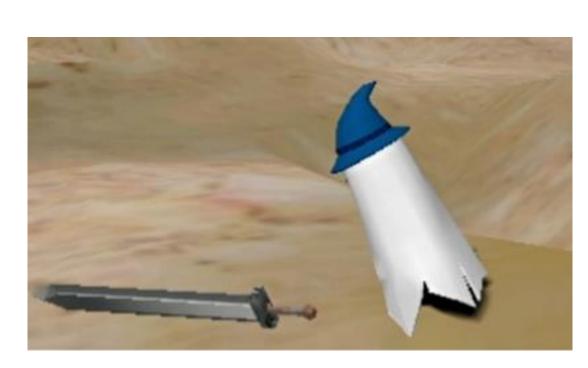
通常のアニメーションループ中に別の動作へ 切り替わる入力を得ると、ブレンド用のテー ブルをその場で作成し次のブレンドアニメー ションに使用します。



アニメーションの更新処理のアルゴリズム

ブレンド用のテーブル作成詳細

ブレンド用のテーブルをClear()



各パーツにおける現在のアニメーションの最後のフレーム情報

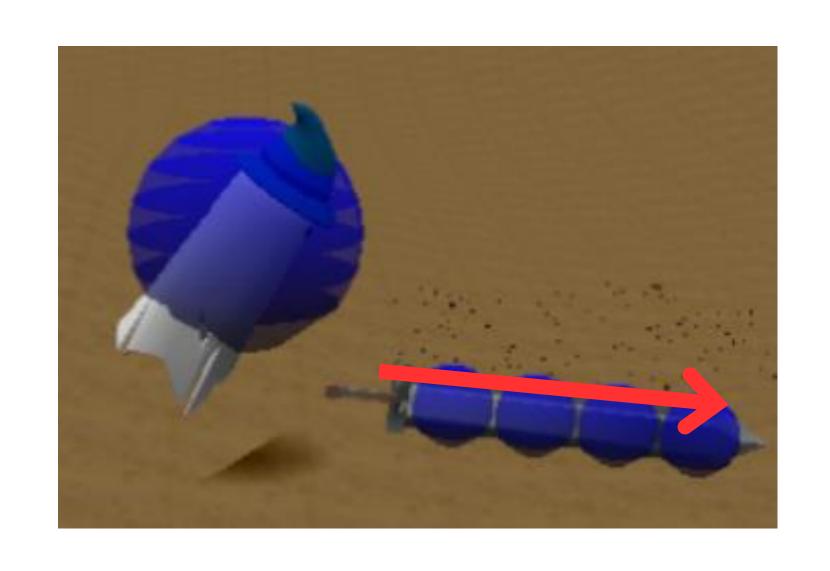


各パーツにおける次のアニメーションの最初のフレーム情報



ブレンド用のテーブルに格納

アニメーション中の当たり判定

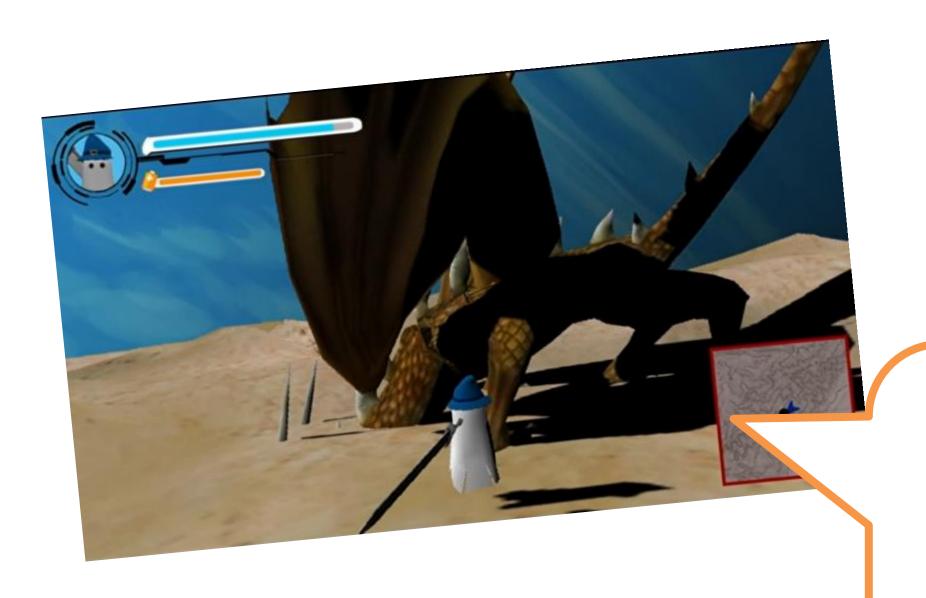


当たり判定はパーツごとに付与し デバッグモードでは可視化しています。

大剣は、

剣の持ち手から剣先へのベクトルに対し BC(バウンディングサークル)を複数個並べ それぞれに対して判定を行っています。

アニメーション中の当たり判定

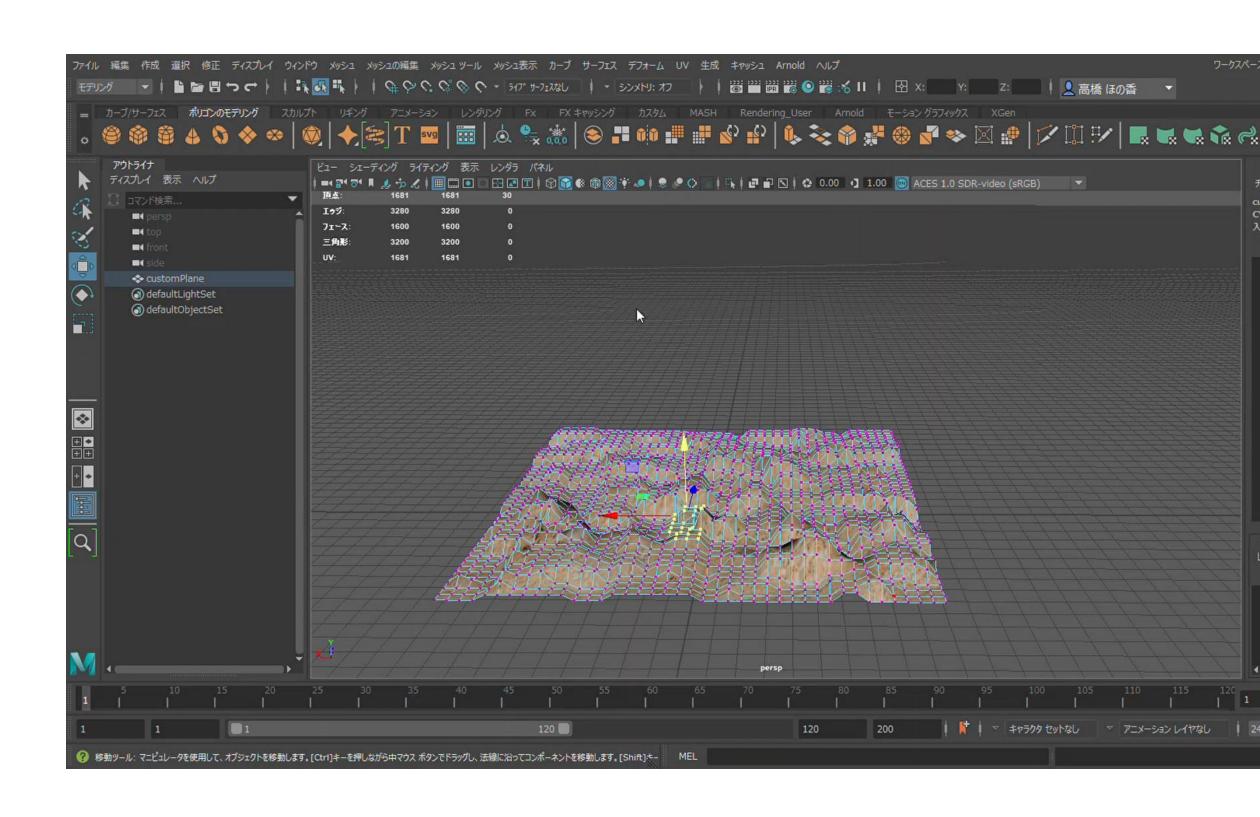


・今後の課題 モンスターのモデルは関節が多いので 階層アニメーションの動きでは限界がある ↓ スキンメッシュアニメーションにも 挑戦したい

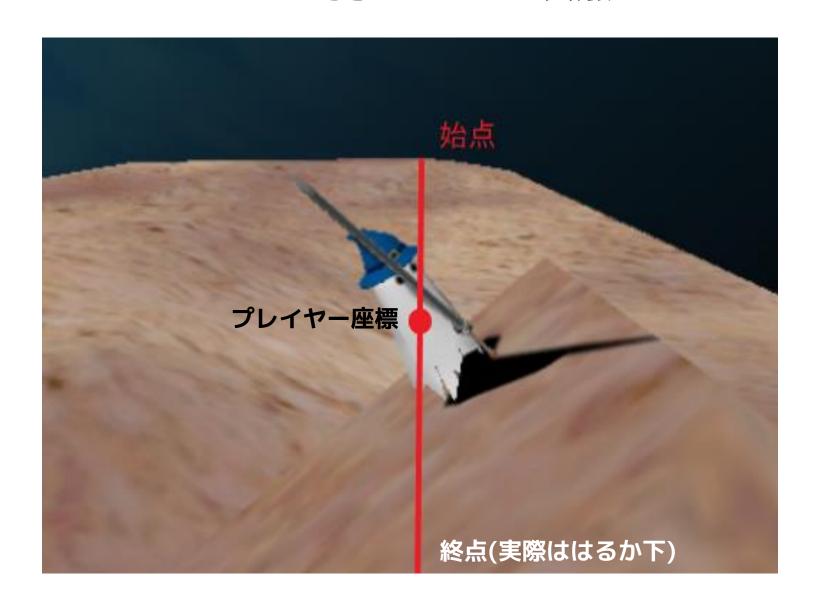
Pythonを使ってMAYA上で 動作するフィールドエディタ ーを作成しました。

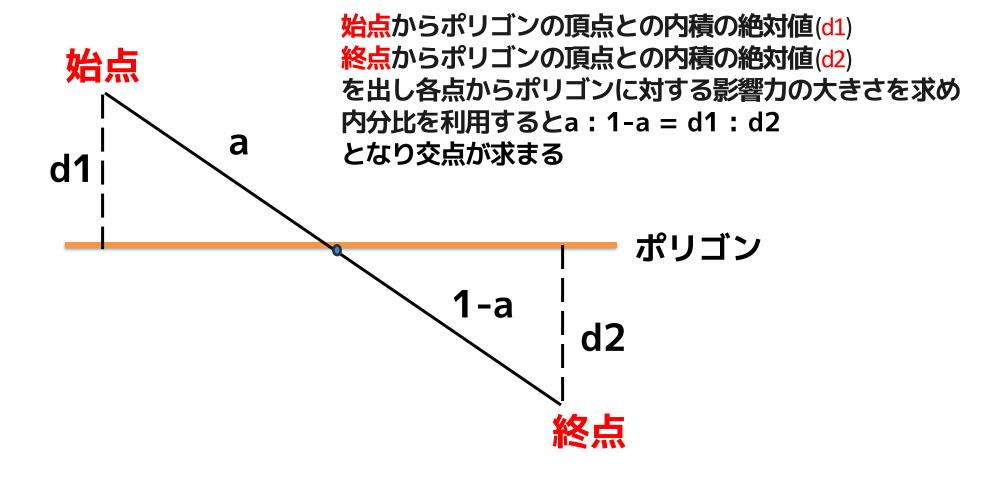
任意の数字を入力し、その数字×数字のマスで構成された 正方形の板ポリゴンを作成

各頂点座標を移動させ地形を 編集するほか、MAYA上のペ イントツールで作成したテク スチャを使用することでゲー ムでも同じ様相に



ゲームではプレイヤーの頭上から真下に向かって レイキャストを行い衝突しているポリゴンとの 交点を求め地面との当たり判定とするため、 エディター上で持ち上げた頂点には登ることが可能です。



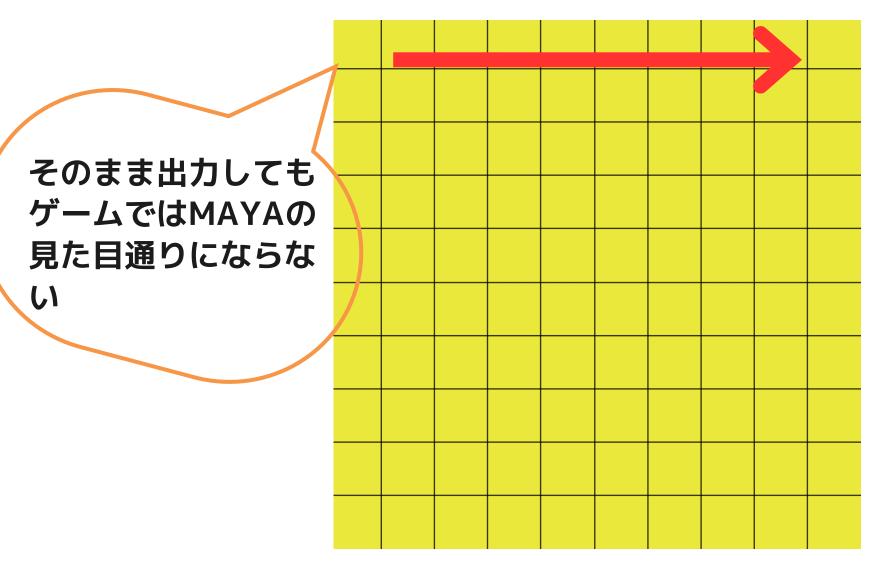


苦労したこと

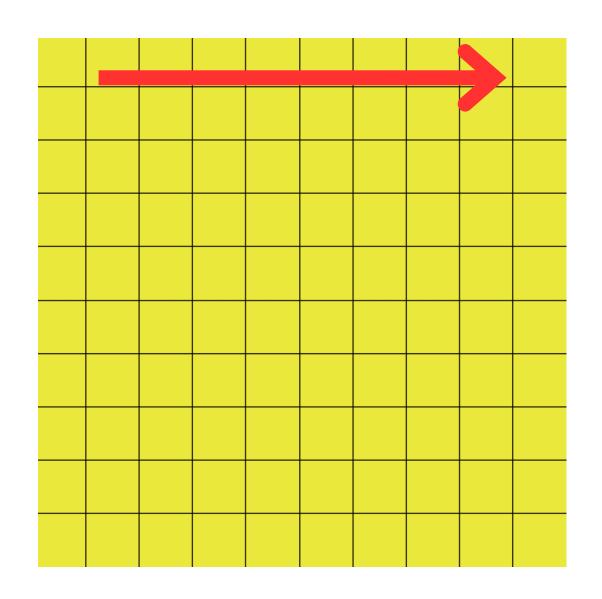
MAYAとゲームで使う板ポリゴンの頂点配列の出力順の違い 例: 10×10マスの場合

0 11 22 33 44 55 66 77 88 99 110

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



MAYA



ゲーム側のメッシュフィールド

対策:

頂点数に応じて配列をMAYA側のパターンに 並べ直してから出力するよう実装

 \downarrow

ゲーム側ではInitで頂点を順にループする際に MAYAから出力された情報を上から順に読み 込めばよい

ゲーム側での導入が容易に!

☆MAYA側の配列パターンを再現
 与えられた頂点数が平方数か判定
 →平方数であれば平方根を取得
 x軸の順番(通常)×平方根+y軸の順番(通常)
 という法則で0~頂点数の数字を埋めていく